



# キッズダンスクラブ

## あぐいタイボキッズ 第1回活動 「廃油から地球にやさしい エコ石けんを作ろう！」

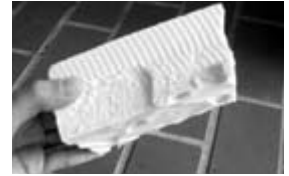


5月～10月の土曜日に小学1年生～6年生25人がチアダンスに挑戦しています。

今は「チア」の精神、ダンスの心得から始まり、基礎レッスン、基本動作を覚えています。

初めて経験する子どもが多く、うまくいかないときもありますが、楽しく踊っています。

これから曲に合わせて振り付けやフォーメーションの練習をします。がんばります。



完成したエコ石けん

タイボとは  
体験活動・ボランティア  
活動の略です

材料をかき混ぜる子どもたち

土曜・日曜日にさまざまな体験活動やボランティア活動を行う、あぐいタイボキッズクラブ。今年度は「環境」「自然」「エコ」を活動の柱に一年間を通して活動していきます。

第1回目は5月26日、あぐいくらしの会の皆さんを講師に迎え、家庭などでいらなくなった廃油から川を汚さない地球にやさしいエコ石けんを作りました。材料をよくかき混ぜて、一週間ほどねかせると固形のエコ石けんができました。



吊りランプ

明治十一年東京で、日本に初めて電灯がとりました。  
この地方では名古屋が明治二十二年、知多半島では常滑線沿線で明治四十五年に電灯がとりました。  
阿久比は大正三年、半田・亀崎・成岩・武豊と同じ時期に知多瓦斯株式会社によって送電が開始されました。  
電灯に代わるまで、日常生活ではランプが使われていました。半田出身の童話作家新美南吉の作品『おじいさんのランプ』のモデルになった半田岩滑新田のランプ屋さん「ランプ、ホヤ」といながら、阿久比にも行商

## 電灯の普及のはなし

子どもに伝えたい

# あぐいのむかし

13



カンテラ

に来ていたそうです。

初期のころの電灯は、暗い電球でしたが、ランプに比べれば驚くほどの明るさだったようです。ほとんどの家は電灯が一つだけでしたので、風呂場や便所には、まだランプやカンテラが使われていました。

### 『おじいさんのランプ』

新美南吉 作 (ストーリー)

物語は明治時代文明開化のころ、ランプ屋になった少年を通して、前半はランプの光が当時の人々に夢を与えた情景を、後半はランプが電灯という新しい道具に代わる時代の変化が書かれています。